仮免試験に合格してから
私は緊急時のみ戦闘が許可され
ヴィランと戦う機会も少しずつ
増えていきました

「はっ！」

「ぐわぁっ」

ドカッ

数分後

「なんとか倒せましたわ…」
（けど全然練習通りいってない…
私…だめだめですわ…）
はあっ
はあ
（トップヒーローになるつもりだったのにもしかして私落ちこぼれなのかも…）
ボロ

「あのクリエティさんですよね？」

「え？」

「やっぱりそうだファンなんです写真撮っていいですか？」

（わ…私の…ファン!?こ、これは！）

「もちろんいいですとも！ポーズはどんなのがよろしいですか？言ってください！されればどんなポーズでもとりますわ！」

「じゃあこんなポーズってできますか？」

「こ…これって」

「最近流行ってるポーズなんですよ」

（学校の勉強ばかりで流行りのポーズは知らないけどなんだかえっちな気がしますわ…けどせっかくのファンの方のお願い断る訳には…）

「わかりました…ポーズとらさせて頂きますわ」

「はいっ！」
ぐぬぬ
（うっ…やっぱり恥ずかしいですわ）

ざわざわ
（ひ…人だかりが出来てきましたわ…）
パシャ
パシャ
（あ…撮られてる私の大事なところいろんな人に撮られてますわ）

「おい ファンならどんな ポーズでもとってくれる らしいぞ」ヒリ ヒリ

ざわ ざわ

「まじかよ ヒリ じゃあ…」ヒリ

「僕達もクリエティの ファンなんです！ よかったら全裸で ポーズとってもらえますか？」

（僕達って…ざっと40人はいますわ!! 私のファンってこんなに いたのですか！ けど全裸って…）

（いえ！これだけの数の ファンが集まって くれたんですもの サービスは大事ですわ！）

「いいですとも！」

「どうぞこれが私のまだ誰にも見せたことないヌードですわ♥」
パーシャ
パシャパシャ
「キタコレキタコレ」

「じゃあ全裸でさっきのポーズして欲しいです！」
「うぅっ…恥ずかしいけど裸を晒したんだからもうとことんだからやってやりますわ♥」

「ほら♥これが私のおまんこですわ♥よく見てください ましし」

ぐい

ぱっ

ひく♡

ひく♡

（あれ？恥ずかしいはずなのに…なぜかおまんこが疼いてきましたわ♥）

「コスチュームの時も十分エロかったけど生乳ドスケベすぎる…」

「乳首こりっこりにおっ勃ててやがる…」

「真面目なヒーローだと思ってたのにこんな変態だったなんてうっ…」

「うわでっか」

「あんな乳ただの痴女じゃねーか」

「うわぁ なんだあのマンコ エロすぎだろ！ 誘ってるじゃん」

「大陰唇むっちり しすぎだろ…」

「クリエティなだけに クリも大きくてエッチな形してるわ」

「数の子天井だ 挿れたらざらざら した突起が 吸い付いてくる らしいぞ」

「もう俺 我慢できねぇ！」

「オラッ犯らせろ!!」
ドッ
「えっ!?」

「おっ…おぉッ♥」
グププ
「んおっ♥
入ってる！殿方の
肉おちんぽが…私の
入っ壺をかき分けて
入ってきてる！」
（だめっ流石にこれは
止めないと…）

「ち…ちょっと流石にこれはッ」
「んおおお

（私交尾してる…見ず知らずの人と…ゴム無し本気交尾…）
ンヒィ♥
オッ♥
ズボッ
ユラ
ユラ
（学校にばれたら退学じゃ済まない…ファンがいてくれたっていう嬉しさからついサービスしちゃったけどこれはマズいですわ）

「あ…あのっごめんなさい
私…んおっ♥…やっぱり
こういうことは…あン♥」

「クッ…このまんこ
気持ち良すぎる！
ひだがネットリ絡み
ついてくるッ！」

「こんなの精液
搾り取るだけに
出来たオナホール
だろッ！
まじやべぇ!!」

「オナっ…違います！んおぉっ♥やめてください♥その…オ…オナホールなら…私がいくらでも作って差し上げますのでっ」

「うるせぇっ！こんなドスケベまんこ味わわせておいて他で満足できる訳ないだら！オナホは黙って俺のちんぽ気持ちよくさせることだけ考えてろ！」

「!!」

「うおっなんだ!? 急にすげぇまんこ締め付けてきやがった 自分がオナホだって自覚したのか？」

（そんなわけない！…はずなのに♥酷いこと言われてるはずなのに♥私のおまんこで喜んでもらえて嬉しいと思ってしまった自分がいますわ♥）

キュン

キュン

ビクッ♥

ビクッ

ビクッ

「あ～～やばい出るっ！
金玉どくどく精子
作ってる…濃いの出すぞ
クリエティ！」

「えぇっ！ちちょっと!!
それだけは本当に
ダメですわ！う❤
ごめんなさい！
やめてください！」

（嘘っおちんちん
ビクビクなってる！
このままじゃ…
赤ちゃんできちゃう!!）

「いやっ！
やめてください！
やめてください!!
お願いします!!」

「でるっ
出る！」

「お願いします
やめっ!!ーーー

ぶっ

ぶぃっ

おっ

ぶぷぷぷ

ぶぷぷぷ

「ぷるるん=」
「ぷにぷにぷに

「あー気持ちいい～❤肉ひだにちんぽ押し付けながらの射精たまんねぇ❤ちんぽあったかくて射精がとまらねぇ…」

（ひぃい…おちんちん…びくっびくってずっと赤ちゃん汁出してる…おまんこの中にあついのが流れてきて変な感覚…）

どくっ

どくっ

どくっ…

どくっ

どくっ

ど、ど、ど、

「あー気持ち良かった…
ありがとうクリエティ
これからも応援してるよ」

「ど…どういたしまして？」

（ようやく終わりましたわ
この方も喜んでいるようですし
ポジティブに…考るように
しましょう…）

「はぁ～やっと一人目が
終わったよ」

「ひ…一人目？！
まさかこの人だかり全部と
するんですの？」

「そうじゃないの？皆ファン
なのにまさかそいつだけ特別
扱いしないよね？」

「そ…
それは…」

数時間後

「オラッ！孕め！」
ドピュルルル
私はヘンタイ
ゴポッ
ゴポ
ビュ
ビュ
おちんぽ大好き
正
正
正

「これで全員終わったよ
ありがと！じゃあな！」
「えぇっもう終わりですの？
まだまだおまんこの
疼きが止まりませんわ♥」
ぽう
ど
「お姉さん
ここで
何やってるの？」
「ん？♥」
（子供……♥）♥♥

「雄英高校一年
八百万百♥ヒーローネーム
クリエティですわ♥♥♥
君に気持ちいいことに
興味はありまして？」

「え？…」

ドピュ…

乳しまんこ

私はヘンタイです

おちんぽ大好き

正正正正正正正

内便器ヒーロー

ハダシ